室戸市保育所及び学校適正規模・適正配置実施計画（案）地域説明会

〇日　　時：　令和５年７月７日（金）
〇場　　所：　室戸市役所
〇市出席者：　百田教育長、山本教育次長兼学校教育課長、村上課長補佐、髙﨑班長
〇参加者数：　８人

（髙﨑）
それでは、定刻となりましたので、室戸市保育所及び小中学校の適正規模・適正配置についての地域説明会を開催します。
まず初めに担当者の紹介をさせていただきます。教育長からお願いします。
　≪担当者挨拶≫
（髙﨑）
この説明会では、令和２年度から検討を始めた室戸市保育所及び学校適正規模・適正配置について、実施計画案を作成しましたので、その内容について説明させていただきます。
なお、この説明会は記録作成のため録音させていただきますのでご了承ください。
それでは説明会を開催させていただきます。まず教育長から挨拶をお願いします。
（百田）
皆さんこんにちは。今日は大変お忙しい中参加していただきましてありがとうございます。
実は昨日も佐喜浜の方でですね、させていただきました。
この会議あたっては、、保小中の全てのご家庭に直接お手紙をさしてございます。
それから、広報にも載せて、今日また放送も入れさせていただきましたが、それぞれ皆様も大変な事情もございまして、
予定時間になりましたので集めさせていただきますと、この
規模適正配置実施計画の案を、この間、教育委員会の方で作りましたので、その経緯と、この方向性を説明させていただきます。この中で、資料の中にもございますけれども、非常に東京市内で中小者の数も減ってきまして、なかなかですね、教職員の、減るとか、色々課題が出てきておりまして、いろんな検討させていただいてたところでございます。今日は、現状のないご意見をお聞かせいただいても、まだ案の状況ですので、でき、地域の皆様のもですね、そういう形でやりたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いします。
（髙﨑）
それでは、続いて学校教育課長の山本より、まず初めにこれまでの経緯について説明し、その後で室戸市保育所及び学校適正規模・適正配置の実施計画案について説明をさせていただきます。
それぞれについて、質疑応答の時間を設けますのでよろしくお願いします。
（山本）
≪資料にそって経緯説明≫
（髙﨑）
先ほどの経緯の説明について質問がございましたら、挙手をお願いしたいと思います。

はい、それではないようでしたら実施計画案の説明に移らせていただきたいと思います。
（山本）
≪実施計画案説明≫
（髙﨑）
それでは、これまでの説明につきまして、質問のある方いらっしゃいましたら、手を挙げていただけますか。
（参加者）
あの、羽根から佐喜浜、この話は、保護者などに説明をしてるわけ？
各会場で、どういう意見があったか、ちょっと紹介してくれんかな。
（山本）
この実施計画案についての説明会が、昨日から始めてきまして、昨日は佐喜浜で行いました。今日が室戸地区で、来週の月曜日が元、火曜日が吉良川、水曜日が羽根ということになっておりますので、まだ現時点では、全部の地域の方のご意見っていうのはまだ出てきてない状況です。ただ、昨日の佐喜浜では、やはり佐喜浜に学校を残してもらいたいと、小規模校であってもやはり残してもらいたい、佐喜浜地区の方にとって学校はですね、日頃から地域との連携を取っているということで、やはりちょっと強い思いっていうのがあるのかなという風に感じております。昨日の説明会でも、この教育委員会の示す実施計画案と、やはり地域の方の思いっていうのは、なかなかやっぱりこう一緒にならないということもあって、再度また地域の方との協議の場を持つということで、昨日は終わっております。以上です。
（髙﨑）
他にございませんか。
（参加者）
室戸高校との協議により施設の共有が難しいと判断し、スケジュールを見直したということで、2 年遅れるというとこなんですけど、ここで新たに施設を整備する形でスケジュールを見直しというんですが、これが室戸高校の近くにプレハブなどを建てて移転の間何かされるということなんですか？これがちょっとわからないんですけど、なぜここで協議があって、周辺に新たに施設を整備する形でスケジュールを見直しっていうところをちょっと説明していただけたら。
（山本）
わかりました。まず、当初は室戸中学校を先に移転するという話があってですね、令和２年に立ち上げた検討委員会の中でも、室戸高校の施設を使えないかと、室戸高校の生徒が減ってきてるんで、空き教室もいっぱいあって、そこを使えないかというようなご意見っていうのはありました。そうしたご意見を踏まえてですね、教育委員会と県の教育委員会の方と、まず令和 3 年の 10 月に協議を行いました。その時に県の教育委員会の方から、まず一旦、室戸高校の現場と市の教育委員会、現場サイドでちょっと話をしてみてくれないかということで、室戸高校と協議を持ったんですけれども、まず市の教育委員会の方からは、中学校としてですね、1 学年 2 クラスを想定した、1 週間あたりの授業でどのくらい教室が必要になるのかとかですね、あと、高校にはない中学校の施設としてですね、例えば障害をお持ちの方の支援をする特別支援室、そういった教室も必要になってくるとい

うことと、あと技術室ですね、それと、あと給食になりますよね、給食の受配施設と、あと中学校の職員室等がいると。そういった、新たに高校にはない部分っていうのが必要になってくるということをまず申しました。

（参加者）

それは中高一貫校の予定だったんですか。

（山本）

違います。中高一貫校ではなくて室戸高校を間借りするという話だったんですが、先ほど言ったような状況を話した時に、室戸高校の方からは、確かに生徒は減ってますと。減ってますが、総合学科ということで、総合学科は生徒個人がですね、それぞれの進路に合ったコースを選ぶということで、例えば少人数でも 1 つのクラスを使う、同じ時間帯で、2 つ、3 つ使うというようなこともあってですね、中々中学校が求める教室数っていうのは難しいというような協議の中でですね、委員会の方としてはもう室戸高校を間借りするという判断もちょっと難しいと。それで室戸高校周辺の土地から買って、そこへ新たに作るというような。

（参加者）

それはもうプレハブですか。仮設ということじゃなくて。

（山本）

仮設じゃないです。本校舎を作ります。

（参加者）

本校舎を作るんですね。それで見直しを行ったということですね。

（山本）

そうですね。当初、室戸高校をそのまま間借りとかできたら、やはり当初のスケジュールで行けたがですけど、やはり土地から購入するとなったら、もっと時間かかるということでの見直しになります。

（参加者）

わかりました。

（参加者）

すいません。昨日、佐喜浜で説明会があったがですよね。佐喜浜の父兄の方が、実はこういう声を寄せてくれました。それはですね、佐喜浜も一緒に統合となるということになった時にスクールバスの送迎を予定してるというようなことで、そんなになった時に、つい先月ありましたよね、55 号線が止まる。あの時間に止まったら、子供は学校へ来て、学校で寝泊まりをするようになるがやろうか。親も迎えに行くこともできん。しかも、東洋町は道路が止まるというのがわかったら、手前に 1 時間前後の猶予を見て、それで東洋町から外へ仕事に出ている人らも、道路が止まるよというまでの間の時間で周知をして、仕事先からも戻れるようにという配慮が東洋町はあるらしくて、アナウンスとかそういうのがあるらしくて、でも、佐喜浜の子供が仮に室戸学校へ来た時に、天候状況、これは南海トラフの地震よりも、やっぱり 1 年のうちに何回かは起こりうる状況で、そんなになった時にこの子供たちを市はどのように扱って、どのようにやってくれるんやろうということの声をいただきましたけれど、市としてはどんな感じですか。

（山本）
国道が遮断されるっていうのは、例えば台風とか事前にもう来るっていうのが分かってた時とかは、例えば休校とかいう措置が取れるんですけれども、やはり今の線状降水帯とか、予測できないタイミングで大雨が降って国道が遮断される場合とかもあります。基本、そういった場合にですね、やはり学校におる子供については、学校が責任を持ってみるということになっております。あくまでも保護者の方に 引き渡すまでは学校は責任を持って学校で見るということになっておりますので、それが状況によってどのぐらいなるかは、その時のあれになりますが、基本はもう学校で見るということですね。あと例えば、南海地震の時に津波が発生した場合に、やはりその国道が通行止めになると。やはりその新しい学校で生徒が避難を余儀なくされるっていう状況は十分考えられます。その時にも、やはり学校が責任を持って、生徒の安全確保は図るということになります。
（参加者）
それはよ、学校が見る言うたち、どんなに見るのか、そこを教えてほしいと言いゆう。例えばホテルへ連れていくのか、あそこの中で、例えば学校の中で寝泊まりをするのか、また、キャンプみたいにやってするのか、その辺りがちょっと具体的に聞きたい。
（山本）
基本は学校の施設の中ですね。外へ連れていくっていうことはないですね。今度の統合中学校については、市の避難場所の指定っていうのも予定をしておりますので、一定その避難場所で過ごすっていう形になります。当然学校が責任を持って見ますけれども、例えば、避難所が長引いてきた時には、市の災害対策本部等が、体制がとれば、そこへ市の職員を行かすという形になりますので、基本は学校の施設内にいてもらうという形になります。
（参加者）
すいません、２点ほど。１点目なんですけれども、そのアンケートの結果なんですけど、やはり保育所、小学校、中学校、各保護者に対してやりとりしてると思うんですけど、中学校の保護者いうたら、もう卒業してしまうから、あまり関心がないやろうし、小学校の３年とか４年とかであればあれかなと思うんですけど、下の保育所とかの方は結構、将来こう、何年かしたら上がっていくんで、１番この意見が多分大事やと思うんですけど、この人たちどんな意見なのか教えてほしいというのが１点。それと先ほどの説明を聞きまして、当初室戸高校を使おうと思ったから室高の近くをということなんですけれども、じゃあもう室高が、共同で使うのは無理やとなってきた場合、逆に既存の、この案である羽根中学校１校しか浸水区域外っていうのはないんですけども、そこへ統合とか、逆に山の上の体育館があるんだったら、もう体育館だけでも中央公園があるからそっちへ移転とか、そういう風な柔軟な発想っていうのは今後どうなんでしょうか、できるもんなんでしょうか。それとも、やっぱり室戸に置くべきだという風な議論がやっぱ出てくるのかなとは思うんですけど、その２点だけお願いします。
（山本）
先にその２点目の方で、まず当初はやっぱり室戸中学校の移転ということもありましたので、そこでスタートしてるんで、やはり新しい中学校については室戸地区、やはり生徒数のこともありますので、まず室戸地区ということですね。
あと、そのアンケートが、これは保護者別には…。

（髙﨑）
すいません。アンケートについて２年前にとった段階でですね、保護者別には一応回答はしていただいてるんですけど、保護者別に、地区とかの錆分けがまだできてません。なので、昨日の説明会でも意見がありましたので、地区別であったり、保育の保護者、小学校の保護者とか年代別に錆分けしてですね、また、ちょっと公表させていただきたいと思います。
（参加者）
あとそれともう１点、自分の地区の元小学校、９名しかおらんがですよね。保護者どうですか？はよう統合してくれとかいう声はないですか。自分の時、37 人で僕副会長したんですけど、もう経営が限界っていうのもすごいあって、なんで元小へ行かないかんがなっていう、できれば室小へ行きたいっていうのがあったんですけど、そういう声っていうのはないですか。反対に。
（山本）
来週の月曜日に地区へ入っていって、その辺りの声っていうのは聞こえてくるのかなとは感じてます。現在でも、元地区から、室戸小学校へ通われてる子供さんもやはりいるという状況で、そこはちょっと地域の方の声を再度聞いてですね、ちょっと判断していきたいなという風には考えております。やはりその、統合を望むっていう声もやはり以前からはあったとお聞きしております。今回の実施計画で年度を明記して、統合を考えていくという風な形にしております。
（参加者）
もっと早くしたらどうですかね。もうなんか見てて可哀そうな気がして。
（参加者）
その、月曜日に元に来てくれるんですけど、ちょっと用事があって、今回こっちに来させてもらったんですけど、私も７年度からじゃなくて、もうすごく本当に早くしてもらいたいっていうのはあります。１年生は１人で、３年生も１人、あと２、２、３で、２年連続で卒業式もないし、やっぱりその複式っていう感じで、下級生の時は全然そんなには思わんかったですけど、上級生に上がってきて、やっぱり複式で、それも複式を経験した先生が来てくれるんであれば、まだましっていうかあれなんですけど、今おる先生も初めての先生やし、やっぱり複式って言うても、３年生が黒板でなんかやりよって、４年生はホワイトボードで、先生が３年生教えゆう間は、こっちはプリントしてます。なんかわからんかったら、そこを聞きにくるみたいな。複式やけど、授業も回らないというか、やっぱり人数が少なくって、その先生との距離感はすごい近くていいとは思うんですけど、逆に近すぎて、わがままというか、全て自分の意見が通ってしまうっていうのもあるし、やっぱり行事ごとは本当に保護者の負担がすごい大きいし、でも、運動会とかも、やっぱり特に思いますね、なんて言いますかね、集団生活っていうのをやっぱり経験しないと、どうしても上級生に上がってきて５年生で室小と一緒に宿泊研修やるっていうけど、やっぱりもう５年生、６年生になってきたら、やっぱりもうそんな時に行くっていうのも、やっぱり、もう嫌やって言うし、修学旅行も、結局室戸小学校についていっていかないかんけど、今の時点で３人、せっかくね楽しみな修学旅行やのに、なんか嫌や、行きたくないとか、もうすでにそういう。

吉良川とか羽根とか佐喜浜さんとかは、小学校から中学校がありますよね。元って結局室中で室小と一緒にならないかんので、交流会っていうのも、そんなに実質やってないですよね。そういうので急に、お泊まりでとか、修学旅行とかで急になるとか、この夏休み中にある水上交換会みたいなのも、実質行きたくないというか、もう子供自身は、そういうのがストレスというか、3 人しかいないので、どうしても、大きな学校に行くっていうのが、子供自身がやっぱりすごい不安とストレスになってますね。
なので、もう早くできれば。なんかちょっと来年 150 周年記念にかかっているんでっていうのを聞いたけど、それがあるってことは、それにもまたなんかそういう会とかがあるんであれば、またそれに手間がかかるというか、そういうのがまた負担がかかってくるんではないんですかっていうのもあるので、ぜひ、すぐしてほしいっていうのはあります。

（山本）

今の元小の現状についても、私も承知はしているところですけれども、まず統合するにあたって、やはり様々な方のご意見というのがあるということと、統合するにあたってですね、やはり事前に児童の交流とか、教職員の交流とかですね、一定そういったところを、踏んでいった中で統合していくべきかなという風には考えておりますので、それで、あえて 1 年の中でそういうことをした上で、令和 7 年度から、統合したらっていうようなところが、この実施計画での考え方となっております。

（参加者）

すいません。あの前回っていうと、前年度の分で、吉良川の会場で話を聞いた時に参加をされちょった男性の方が検討委員会のメンバーの人でした。検討委員会では一気に統合するんじゃなくて、段階的に統合するのはやむを得んということを検討委員会の結論として出していると。でも前年度の説明会ではそのようにはなってなくて、一気にするということを説明を受けて、議論が出されたけど、検討委員会の資料も取り寄せてみたら、やっぱりそれは段階的に統合していくということが書かれています。この検討委員会の答申はこのまま進められていくがですか。どうなるがですか。

（山本）

確かにその検討委員会の方では、中学校は段階的に 1 校に統合を行うべきであるということで、昨年の基本計画の中では、先に令和 7 年度中に室戸中学校を先に移転して、その後で他の中学校を統合していくという計画となってました。今回作ったこの実施計画については、施設整備のスケジュールの見直しで、やはりちょっと 2 年遅れてくるというところと、あと先ほども言いました、令和１０年度の各学校の生徒数の状況を見た時に、やはりそのタイミングで 4 つの中学校が対等な立場で統合した方がいいんじゃないかということで、今回このような形になってます。その対等の立場っていうのはですね、当初は室戸中学が先に行って、そこへ後から、室戸中学に統合するというような考え方でしたけれども、この対等な立場で、4 つの中学校がそれぞれ統合中学校ができるまでに、いろんなその学校のあり方とか、こういうことをしたらいいっていうのを検討できる場があるかですよね。やはりそういったことで、4 つの中学校が一緒に考えた新たな統合中学校としてスタートしたらどうかというようなところがこの実施計画での考えとなっております。

（参加者）

この中学校の統合の話ですけどね、それは非常に違和感を持つわけなんです。

地域の人、あんまりたくさんの人と話してないんだけども、子どもをもつお母さんらと話ししてね、したぐらいだったけどね、要するになるだけ学校は地域に残してほしいというの、みんな言うとるわけなんだよな。自分らもそう思うわけよ。だから統合というやり方、一方的に言うんじゃなくて、統合せずにやっていける方法はないのかという、そういう案をね、出せないのか。
この庁舎の問題でも２つ案を出しとるわね。新築移転ということだけを言うんじゃなくて、耐震補強の道もあるというようなね、選択肢はやっぱり出してもらわんといかん。
この中学校は統合というのはね、多くの人が地域に小中学校を残して、小中の併設ということは皆問題ないと思ってるわけね。我らの時もずっと併設だったんだからね。だけど統合となってよそのところへずっと行くとなった場合はね、地域が寂れていくんで、学校がそのまま、中学校という学校が、校舎はあるけども実態は消滅しているわけよね。それは、村という、町という、神社とか、寺とかね、その次にやっぱり学校というものはふるさとの象徴なんだよ。そういうものがなくなっていくということを、 今の人口の動向では、本当に消滅していってしまうんじゃないかというあれもあるけど、なるだけなら残したいと思ってるわけ。だから、一方だけ統合は絶対統合だというんじゃなくて、統合せずに済む方法はないのか。学校の先生なんかも、こういう時代に合わせた教室のあり方をね、やっぱり、研究してもらわないかんのじゃないかな。
私の経験から言うとね、私、塾やってたよ、小中高校生をね、50 名ぐらいを一遍にやってたんだよ。1 つの場所でね。小学校の先生が中学校のことまでやれというわけじゃない、小学校のことだったら、先生方皆国語でも算数でもできるんじゃないかと思うんだよな。時代に合わせて先生の教育のやり方もやっぱり考えていく。複式学級は必ずしも悪いとは思わないんで、やり方によっては、その方がずっと子供のためにいいんじゃないかっていうこともあり得るわけ。だからプレゼンテーションというか、市民の中からでも、あるいは市内の教育専門の方でもいいけどね、一方的に、統合という道しかないということじゃなくて、他の道も、なんとか地域で小中学校を残していく方法もあるんではないかということをね、提案してもらうというようなことをね、やったらどうかと思うんだがなあ。
（山本）
この統合するという判断をした時にですね、この 10 ページ、この各学校の生徒数の状況っていうのが、こういうことが見込まれると。場合によったら、中学校でも複式学級っていう編成っていうのが必要になってくるというところで、やはりそこのところのですね、教育環境が果たして室戸の子供たちにとって本当にいいのかっていういうところは、やはり考えたんですよ。確かに、小規模校のメリットっていうのもありますし、統合して一定規模の学校についてもメリットっていうのがあります。また一方、地域の方にしたら、やはり地域に残してほしいという声は、これはもう強いですね。でもその中で、やはりこう、室戸の中学生にとって、より良い学校環境というのは何かっていうところを考えた時に、教育委員会の方では、やはり一定規模の児童生徒数が確保されていること、あとやはりこう、年齢とか、専門性とか、そういったバランスの取れた教職員数が配置された学校というのは、やはり、そういう環境をやっぱり作ってやるべきだというのが教育委員会の考えです。この考えに対して、●●さんの言われたように、いろんな意見が出てくると思いますので、それはご意見としてお伺いしてですね、また地域の説明会、これから入ってきま

すけれども、そこのご意見については、真摯に受け止めて、その上でまたどうしていくかっていうのは判断させていただきたいという風に考えてます。

（参加者）

２つありまして、まず１つ目教えていただきたいんですけど。中学校が羽根中学校以外は浸水域内と、小学校はどうですかね。

（山本）

吉良川小学校だけが非浸水区域ですね。浸水しない地域はその１校だけになってます。５校あって他の４つの小学校は全て浸水区域に位置しているというところです。

（参加者）

わかりました。もう１つなんですけれども、８ページで小学校についてのところで、小学校と保育所か、中学校の統合後に跡地に移転を検討しますとあるんですけども、これ跡地にっていうのは、建物を建てるわけじゃなくて、今の中学校にってことですかね。

（山本）

そうですね。中学校の施設を活用するという。

（参加者）

はい。そこなんですけど、空き教室があると思うんですけど、すでに。地震がいつ来るかわからないので、空き教室への保育所、あと小学校を入れるっていう可能性、そういうことはできないでしょうか。

（髙﨑）

今現在、羽根中学校を例に出させていただきますと、空き教室がですね、今、教材とかを置いたりして埋まってる状況です。空き教室もあるはあるんですけど、小学校を移すとなると小学校用の職員室であったり、保健室もそうですけど、圧倒的に数が足りないんですね。今の状態で移すんであれば、先ほど言ったように、仮設の校舎であったりとか、そういったものの建築が必要になってきます。

（参加者）

わかりました。じゃあ中学校が統合後に、小学校と保育所は同時に大丈夫ということですか。

（髙﨑）

それもですね、令和 10 年度、ちょっと頑張りはしますけど、小学校が中学校に行く場合、階段の高さとか、それをちょっと低くする工事を事前にやるとかですね、手洗い場とか、それの高さもちょっと下げる必要が出てきたりとか、あとはどこまで行けるか、引っ越し作業とかも出てきますので、令和 10 年度に、小学校と保育が上げれるとは、ちょっと今の状態では言えないです。１年とか半年とか遅れる可能性はあると思ってます。

（山本）

ただまあ、やはり急がれるので、できるだけ、仮に羽根中学校がこちらに来た場合には、そこの後になるべく早く入れるような形はとっていきたいと考えております。

（参加者）

ありがとうございます。

（髙﨑）

他に質問のある方いらっしゃいますか。

≪質疑無し≫
そしたら、無いようでしたら、この説明会の方終了させていただきたいと思います。
遅い時間にありがとうございました。

【会終了直後】

（参加者）
あのちょっと聞きたいけどね、各学校の運営協議協会いうのは作ってないわけ。学校運営協議会を作らなければならないという風に地方教育行政の法律では書かれちゅうわけよ。
（髙﨑）
学校運営協議会については、令和３年度から佐喜浜地区の学校運営協議会がスタートしまして、今年度から吉良川地区の学校運営協議がスタートしております。この７月中に羽根地区がスタートする予定となっておりまして、今年度中にすべて設置完了する予定になっております。
（参加者）
そこでちゃんと協議、統合の件もするわけ。
（髙﨑）
学校運営協議会がですね、どちらかというと、統合するとかどうこうではなくて、学校の運営方針であったりとか、どういう教育を行っていくっていう話がメインになるかなと考えております。
（参加者）
それは僕が提案したようにやね、一方的に統合という路線だけじゃなくてね、統合せずにやっていくと、地域に残していくという方法はないかね。プレゼンテーションはね、市民からも集めるなり、先生方から聞くなりね、やったらどうなんだ。小豆島の 24 の人々いうのがあったわな。あれ 12 名しかおらんがで。だけど非常に素晴らしい教育を行ってきてるだろ。だから少人数になったから教育ができないなんていうようなことはないわけよね。
（山本）
ご意見としてお伺いしておきます。今後地域に入って様々な意見をお聞きしたいと思います。